

# 赤穂義士と山鹿

第5回

## 堀内伝右衛門の覚悟

前回は討ち入りのときのエピソードを紹介しましたが、今回はその記録を書き残した堀内伝右衛門の人となりを目を向けたいと思います。

### 堀内伝右衛門について

堀内伝右衛門は本名を堀内勝重といい、正保2(1645)年、細川家に仕える医者の子に生まれました。伝右衛門は四男でしたが藩主・細川綱利に見込まれて、藩士となり、綱利の側に仕えました。伝右衛門の屋敷は熊本城下でありましたが、与えられていた領地の一部が現在の山鹿市寺島だったので、菩提寺が日輪寺でした。赤穂浪士の世話をした時の年齢は58歳。当時としては高齢だったといえます。

### 伝右衛門の人柄と覚悟の口上書

伝右衛門の人柄を知るエピソードとして「堀内伝右衛門覚書」に次のような話が残されています。

浪士たちは幕府からの命令によって、討ち入り後に処分が決まるまでの間、外部と手紙などのやり取りを禁じられていました。しかしあるとき、浪士の一人、儀具十郎左衛門の母親が重い病氣だと知ると、伝右衛門はその居所を聞き出し、母親のもとに出掛けて行きました。そして十郎左衛門の母親らに面会して、細川家での十郎左衛門の様子などを話して聞かせました。

十郎左衛門の母親は「息子の様子を聞くことはもう無いと思っていましたが、平穩に過ごしていることが分かり安心しました。(堀内様との出会いは)本当に氏神様のお引き合わせです」と言って喜びました。その様子を見た伝右衛門は「(私は)涙もろく返答がで

きなかった」と書き残しています。そして帰り際に十郎左衛門あてに手紙を書くよう母親らに何度も頼みましたが「以前より十郎左衛門からは手紙をよこすと言われているので」と言って固く断られました。どうしても諦められない伝右衛門は、出された煙草と、床の間に飾られていた梅と椿の花を紙に包んで持ち帰ったのでした。それらを十郎左衛門に渡して母親の様子などを伝えると、十郎左衛門は心の底から喜んだそうです。

こうした伝右衛門の行動は、幕府に知られれば藩にも迷惑がかかる恐れがあったため、他の藩士からも注意を受けていました。しかし、伝右衛門は聞き入れず、懐にいつも次の口上書を入れて、その後もこうした取り次ぎを続けました。

「殿様(綱利)からは常々気を付けるよう言われているが、浪士たちは無双の忠臣であるので、私のすることは主君の命令に背く不忠であると言われても、命を懸けて浪士たちとその家族との間を取り次いでいるのです」

幕府から責任を問われたときは、腹を切る覚悟だったのでした。



堀内伝右衛門とその妻の墓(日輪寺)

問い合わせ先: 社会教育課 ☎43-1651

## 私だけは大丈夫!?

## 消費生活相談



### 通信販売で買った服のサイズが合わない。クーリング・オフできる?

#### 【事例】

通信販売で服を購入したが、サイズが合わなかったので返品を申し出たものの、応じてもらえなかった。

#### 【アドバイス】

●クーリング・オフ(無条件解約)は、訪問販売や電話勧誘販売など、契約条件を理解しないまま契約する可能性がある販売方法において、一定期間、契約を無条件に解除できるという制度です。

●前もって商品を検討し、自分で確認した上で契約できるテレビやカタログ、インターネットなどの通信販売には、クーリング・オフ制度がありません。しかし、通信販売業者が、返品や交換できるルールを独自に定めている場合、その範囲内で対応してもらうことができます。

※悪質業者の手口は複雑かつ巧妙化し、多数の消費生活相談が寄せられています。市では、専任の相談員を配置し、いつでも相談できる体制をとっています。今後も相談窓口の充実と出前講座などの啓発活動を推進していきますので、お気軽にお問い合わせください。

問: 山鹿市消費生活センター(商工観光課内)

☎43-1579

熊本県消費生活センター

☎096-383-0999